

# 玉名荒尾教頭会活動報告

荒尾市立荒尾第四中学校

山田 公洋

## 1 はじめに

玉名荒尾教頭会は、玉名市、荒尾市、玉東町和水町、南関町、長洲町の2市4町の37小学校と15中学校（教頭数52人）で組織されている。

各市町教頭会での独自の活動も大切にしながら、教育上の諸問題に対応するための資質向上を図るべく、お互いに連携を図りながら取組を進めている。

## 2 役員組織

### (1) 玉名荒尾教頭会

会長	山田 公洋	(荒尾四中)
副会長	塩山 浩人	(長洲清里小)
副会長	園田 仁	(万田小)
庶務会計	小篠 次郎	(小天小)
〃	古川 浩美	(南関中)
研修部	荒牧 義孝	(玉名中)
研究委員	道喜 智昭	(三加和小)
副研究委員	高田 義彦	(玉名町小)
教育振興部	正川 公一	(天水中)
〃	古瀬英仁郎	(木葉小)
会計監査	坂口 恵子	(桜山小)
〃	右田 尚久	(府本小)

### (2) 県教頭会関係

理事	山田 公洋	(荒尾四中)
研究委員	道喜 智昭	(三加和小)
日本教育会評議員	塩山 浩人	(長洲清里小)

## 3 本年度の活動

7月30日(金)

玉名荒尾教頭会夏季研修会

演題「小中学校学習指導要領における特別支援教育に係る内容等について」

講師：熊本県教育委員会特別支援教育課

指導主事 谷山 康隆 氏

- ・本県の特別支援教育に係る現状
- ・法規関係と学習指導要領から

- ・個別の教育支援計画等の引き継ぎ
- ・自立活動とは
- ・管理職に求められること

○通常の学級においても、発達障がいを含む障がいのある児童生徒が在籍している可能性があることを前提に、すべての教科ですべての教員が、学びの過程において考えられる困難さに対する手立てを考えておくことが重要だと感じた。

10月20日(水)

玉名荒尾教頭会自主研修会

演題「新しい時代における教頭の在り方」

講師：国立阿蘇青少年交流の家

所長 川並 満徳 氏

- ・県教育大綱やくまもと第3期「夢への架け橋」教育プランから
- ・資質向上に関する指標
- ・目指すべき学校は
- ・地域を巻き込むと学校は忙しくなるか

○様々な経験をもとに、何を考えながら職務にあたってこられたのかご教示いただいた。

その中で「校長に理念と方策がある学校には活気がある。なぜならば、その理念と方策を教頭が十分に理解していて、職員に浸透させているから。」と言われ、校長の補佐としての我々の役割を再認識した。また、夢を語れる管理職でありたいと強く思うことのできる研修となった。

## 4 おわりに

新型コロナウイルス感染症の影響によって、今年度も中止となった活動はあるものの、できることは形を変えてでも極力実施してきた。

研修等を通して、自らの資質向上・人格向上を図るとともに、学び続ける職員集団であること、人材育成をOn the Job Training だけではなく On the Job Learning の視点を取り込みつつ計画的にチームで取り組んでいかなければならない。そこに我々のビジョンと意識改革が必要なのではないかと感じている。